

# 小学校・中学校の古典学習の系統的指導

— 古文を中心に —

Systematic Teaching Guidance of Teaching Japanese Literature at Elementary and Junior High Schools

— On Classics as its Central (main) Theme —

中嶋 真弓(Mayumi NAKASHIMA)

## 1 はじめに

2011年度から、小学校にも古典が導入された。今まで古典と言えば中学校から本格的に学ぶものであったが、小学校から学習することとなったのである。2002年度『学習指導要領』では、〈表1〉に記した事項が、小学校<sup>i</sup>・中学校<sup>ii</sup>で実施された。

〈表1〉2002年度『学習指導要領』			
第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
エ 文語調の文章に関する事項 (ア)易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。	第3 指導計画の作成と内容の取扱い (4) 第2の各学年の内容の「C 読むこと」に関する指導については、次の事項に留意すること。 イ 古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。その教材としては、古典に関心をもたせるように書いた文章、易しい文語文や格言・故事成語、親しみやすい古典の文章などを生徒の発達段階に即して適宜用いるようにすること。なお、指導に当たっては、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては、細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。		

しかし、2008年度『学習指導要領』では「伝統的な言語文化に関する事項」が新設され、〈表2〉のように小学校<sup>iii</sup>・中学校<sup>iv</sup>で行われることとなったのである。

〈表2〉2008年度『学習指導要領』の「伝統的な言語文化に関する事項」			
第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
(ア)親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ)古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	(ア)文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 (イ)古典には様々な種類の作品があることを知る。	(ア)作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。 (イ)古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	(ア)歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。 (イ)古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

これによれば、小学校でも「古文・漢文」を学ぶことになる。教科書教材を見てみると、後述の〈表3〉に示したように多くの教材が小学校・中学校で重複している。もちろん、上記のように『学習指導要領』には発達段階に応じた指導の在り方は記されているものの、小学校・中学校の具体的な系統的指導等については学校や教師の裁量に委ねられているのである。

このように小学校から古典学習が行われるという現状を考えたとき、以下のことを明らかにすることが急務と言える。

◆発達段階に応じた古典指導の在り方

- ・古典学習のカリキュラム
- ・古典学習で付けるべき力
- ・教材開発

◆A・B・C3領域と古典学習との連携

そして、小学校における指導の在り方を考究することはもちろんであるが、小学校・中学校の系統的指導<sup>v</sup>として考えていく必要があると言える。

そこで、本稿では、その第一段階として、小学校・中学校の系統的指導について、どのように考えられているかを、各教科書会社発行の指導書の記述を中心に考察していくものである。

なお、指導書による系統的指導の記述は、検定済み教科書小学校発行5社（東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書・・・）なお、以後発行者略称〔東書〕〔学図〕〔三省堂〕〔教出〕〔光村〕と記すこととする。）・中学校発行5社（小学校と同様の発行者）対応のものとする。

## 2 小学校・中学校に見られる古文教材の指導の在り方

小学校・中学校の教科書には、〈表3〉のような教材が採録されている。〈表3〉から、今まで中学校の古文教材の定番といわれた作品、例えば「竹取物語」「徒然草」「平家物語」「おくのほそ道」等が、小学校にも採録されていることが分かる。そして、その中でも、「枕草子」<sup>vi</sup>は、学年は異なるものの全ての発行社の小学校・中学校教科書に採録されているのである。つまり、小学校・中学校の共通教材となっているのである。

では、「枕草子」は、教科書教材として、どのような学習が位置づけられているのだろうか。教科書の内容並びに「学習のてびき」から、〈表4〉のように整理してみた。

小学校では、多くの発行社が、音読を行った上で、「(随筆等を)書いて交流する」という言語活動を設定している。B領域第5学年及び第6学年の言語活動例ア「経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。」と

〈表3〉 小学校・中学校教科書に採録されている古文					
	[東書]	[学図]	[三省堂]	[教出]	[光村]
5 上	・竹取物語 ・徒然草 ・平家物語	・宇治拾遺物語 ・ <u>枕草子</u>	・平家物語（学 び本）		・竹取物語 ・ <u>枕草子</u> ・平家物語
5 下	・ <u>枕草子</u>			・竹取物語 ・平家物語 *付録：源氏物 語・伊曾保物語	
6 上			・徒然草 ・ <u>枕草子</u> ・おくのほそ 道（学び本）	・ <u>枕草子</u> *付録：徒然 草・おくのほそ 道	
6 下					
中 1	・伊曾保物語 ・竹取物語	・竹取物語 ・宇治拾遺物語	・竹取物語	・東海道中膝栗毛 ・竹取物語	・竹取物語
中 2	・ <u>枕草子</u> ・徒然草 ・平家物語	・平家物語 ・徒然草	・ <u>枕草子</u> ・徒然草 ・平家物語	・平家物語 ・ <u>枕草子</u> ・徒然草	・ <u>枕草子</u> ・平家物語 ・徒然草
中 3	・おくのほそ道	・ <u>枕草子</u> ・おくのほそ道	・おくのほそ道	・おくのほそ道 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">*下線は筆者による。</div>	・おくのほそ道

〈表4〉「枕草子」の学習内容・学習活動			
発行者	採録学年	単元名・教材名	学習内容・学習活動
東書	5 上	日本の言の葉 「古文に親しもう」	・音読する→現代と比べる→季節ですばらしいと感じるこ とを書き、友達と交流する。
学図	5 上	随筆を書こう わたし風「枕草子」	・音読→自分ならではの「枕草子」を書き、友達と交流す る。
三省堂	6	自由な発想で ～随筆～	・随筆を書き、友達と交流する。（その次に、「日本の随筆」 の紹介として「枕草子」が乗っている。）

教 出	6 上	日本語のひびきを味わう→随筆を書こう	・音読する→暗唱し発表し合う→随筆を書き、友達と交流する。
光 村	5	声に出して楽しもう	・音読をする。
東 書	中 2	古典 枕草子	・古文の読み。 ・音読・暗唱。 ・筆者の表現をまねて文章に表す。
学 図	中 3	今に向かって 発見する言葉 枕草子	・古文の読み。 ・音読・朗読・暗唱。
三省堂	中 2	言語文化を楽しむ 枕草子・徒然草	・古文の読み。 ・現代人との共通点・相違点を考える。
教 出	中 2	【伝統文化】随筆の味わい 枕草子・徒然草	・古文の読み。 ・筆者の考え方や感じ方を想像しながら、作品を読む。 ・「春は・・・」等の書き出しを借りて、文章に表す。
光 村	中 2	広がる学びへ 古文 枕草子	・古文の読み。 ・自分の感じる四季の趣と比べる。 ・自分流「枕草子」を書く。

あることから、伝統的な言語文化としての古文を読み味わうとともに、国語の力とし書く力を付ける教材としても位置づけていることが分かる。古典導入は、ものの見方や考え方、つまり作品そのものを味わうと同時に、現在とかけ離れたものではなく今を生きる子ども達の国語力を育成する教材として扱われていることを見て取ることができる。

次に中学校であるが、「古文の読み」とは、原文・現代語訳・古語の特徴・文法等の中学校で指導すべき内容を総称して筆者が整理した。学習内容を見てみると、「枕草子」の表現を借りて書く活動に結び付けている発行社が〔東書〕・〔教出〕・〔光村〕の3社に見られる。その中で、小学校でも「随筆を書く」活動を行っているのが〔教出〕である。

このように見ていくと、同一教材・同一の言語活動<sup>iii</sup>が設定されていることが分かる。一例ではあるが、この利点を生かし同一の言語活動で行った場合、自分自身で小学校に書いた文章と中学校で書いた文章の比較をし、ものの見方や考え方の変容や文章表現に関わる成長等を振り返ってみるのもよいかも知れない。しかし、一方で小学校・中学校で同じ学習の繰り返しになることも考えられる。ここに小学校・中学校の系統的指導の在り方を考えていく必然があるように思うのである。

同一教材が採録され、同様の言語活動が設定されていることが問題ではない。言うまでもなく発達段階に応じて指導内容並びに付けるべき能力が違うからである。しかし、児童生徒から見ると、「同じ教材が載っている。」「小学校でも勉強した。」という意識があるのも確かである。とするならば、繰り返しになるが、これらの児童生徒の意識や思いを大切にす、あるいは生かすために、同一作品を扱う利点を生かした導入の在り方や小学校・中学校の系統的指導の在

り方をより追究すれば、見通しをもった古典学習指導ができるのではないかと考えるのである。つまり、小学校・中学校がそれぞれどのような学習をするのかを互いに少しでも共有できれば、より国語の力を付けることができるのではないかと考えるのである。小学校では、どこまで力を付けて中学校に入学させるのか。中学校では、小学校で何を学んできているのか、そして何を受けて指導にあたるのかを少しでも共通理解し、明らかにしておくことは学習の活性化や深まりの点で重要ではないかと考える。

では、小学校・中学校の系統的指導が、どのように意識されているのかについて、現行教科書対応の指導書の記述から見ていくこととする。

### 3 小学校・中学校教科書会社発行「指導書」に見られる古文教材の系統的指導の在り方

教科書発行社の指導書において、小学校・中学校の系統的指導がどのように記述されているかを下記のように整理してみた。

#### 【小学校指導書の記述】

##### ◆ [光村]

光村図書株式会社『小学校国語学習指導書 五銀河（上）』2011.2.25

◇単元名：「声に出して楽しもう 今も昔も」

◇p122：「声に出して楽しもう」について

- ・小学校において、このように、繰り返し声に出して文語の調子に親しんだり、古人と自分たちとのつながりを感じたりする体験を重ねることが、中学校や高等学校での古典学習の基礎を築くことになる考える。

◇p123：「本単元について」

- ・本単元では、「竹取物語」「枕草子」「平家物語」のそれぞれの冒頭の部分を教材として提示している。従来は中学校において初めて触れる作品であったが、学習指導要領の改訂によって、小学校の教材として位置づけるものである。ただし、文法学習や詳しい意味の読み取りなどは中学校で行うものとして、ここでは、文語の調子に親しみながら声に出して読み、ページ下部の現代語訳と解説文を参考に古代の人々のものの見方・考え方に触れることができればよい。教材名にも「今も昔も」とあるように、そこに現代の自分たちとつながる部分を見つけることで、中学校での古典学習により興味・関心をもてるようになることを期待したい。

#### 【中学校指導書の記述】

##### ◆ [東書]

新しい国語編集委員会・東京書籍株式会社編集部『新しい国語1 指導書 研究編上』

◇p11：■学習材のしくみ■

##### ▼中学校における古典学習のねらい

- ・小学校に古典学習が導入されたことを受けて、中学校では、古典をより深く理解し、味わうことがねらいとされている。そこで、作品や作者について知り、歴史的背景にも触れることがで

きるよう、様々な配慮をしている。

◇p273：指導の研究 「枕草子」

□指導上の留意点

◆まずは音読で作品を味わう

- ・小学校で既に「枕草子」の音読を学習している生徒も多い。生徒の実態に応じて内容理解や表現上の特徴を学習する時間に比重を置くようにするのもよいだろう。

◆ [学図]・・・高等学校との関係中心

学校図書出版社『中学校国語3 教師用指導書 教材研究編（下巻）』

◇単元名：発見する言葉 枕草子

◇p46：「1 学習目標と教材観」

- ・中学校での古典学習指導は、かかる中等古典教育のカリキュラムを念頭に置いて、より深い学習理解、彼らの生きる力に関わる問題圏（例えば、ここでは感受性や思考力の拡大・再編・深化）と古典作品との接点の周到な解析を軸に問題圏に関わる知的体験の場を提供するものでありたい。「三大随筆の一つであり、特殊で新鮮な知性や写実性によって、後世に大きな影響を与えた作品」という従来の評価を学習者の体験として感得させると共に、そのような評価を定着せしめた根拠を作品の言葉と清少納言の営為に探り、学習者自身に自己の言葉と言語活動を振り返らせること、それを通して、「枕草子」との出会い、彼らの言語活動にとって意義あるものたらしめること。

◆ [三省堂]

中学生の国語編集委員会編『中学生の国語上 一年 学習指導書』2012. 3. 30

◇単元教材名Ⅱ－1 声に出して、さまざまな作品を読もう

◇1 学習指導の研究

1) p18：本教材の学習の流れ

- ・4時間扱いの一時（単元計画のようなものの一時間目に 筆者補）「小学校で学んだ文部省唱歌の歌詞も古文として名文であることに気づかせる。」（と指導上の留意点の箇所にある。 筆者補）

2) p18：学習目標と学習の流れ

- ・一年生のはじめとなる授業づくり教材としては、何よりもまず、リズムや調べに優れ、イメージを作りやすく、音読や暗唱に適する教材がふさわしい。また、小学校ですでに触れている作品、日常生活の中でふれる機会の多い作品、生徒たちにぜひ知っておいてもらいたい作品という点も配慮する必要がある。（中略）一年生の学習の初めに、音読を中心とする学習、しかも一通り音読の練習をした後で、自分の好きな作品を発表する等の学習を通して、生徒たちの声を出すことへの抵抗感を取り除くとともに、自己達成感を育み、個性の尊重を旨としたい。

3) 指導と評価の実際（第3時間目が「春はあけぼの」である 筆者補）

P25：「春はあけぼの」の授業の「留意点」で次のようにある。

- ・いずれも、小学校で暗唱してきている可能性が高い。ここでは、教師の範読が、小学校時代の自分たちの読みとは差があることを確認させることが重要である。

P25：(上記の「春は・・・」の授業で 筆者補)「生徒のつまずきやすい点とその手立て」の中に、「複数の小学校が集まった中学校では、小学校ごとの既習事項が異なる。また同一の小学校であっても、作品の暗唱をどこまで求めていたかは担当教師によって異なるであろう。生徒間の差があることも予想されるが、授業を進めるペースは、小学校で全く暗唱してこなかった生徒に合わせ、その生徒への支援を大切にしていきたい。

◇p30：2 教材の研究

1) 教材提出の意図

今回の小学校・中学校「学習指導要領」の改訂を受け、生徒たちは小学校から系統的に、数多くの古典教材を学んできている。(そこで、検討した 筆者補)結果、

- ・教材(作品の種類)としては、詩や古典の和歌や俳句、随筆や物語、漢詩や漢文
- ・学習活動としては、音読・朗読を中心として古典のリズムや調べた味わい、情景や心情を想像する。

などを主な内容として、教材と学習活動を行うこととした。

具体的には、小学校での学習との連続性と中学校でこれまで扱ってきた教材と学習活動を考え合わせ選定した。

◇なお、p35に4)教材の基礎研究として「(2)平成23年度版の小学校教科書で採録されている古典教材」が載っている。これによると、小5「枕草子」(2社)、小6「枕草子」(3社)とある。

◆[三省堂]・参考資料として事例集の内容もここに記しておく。

中学生の国語編集委員会『中学生の国語 学習指導事例集 一年 学習指導書』

◇p6：「この事例の趣旨」「1 音読し、リズムをつかむ」の中に「①個人差は大いにあるが、家庭での百人一首や小学校での指導によって読める部分もあるので、最初は各自の感覚で読んでみる。」とある。

◇p7：教材名 「声に出して、さまざまな作品を読もう」の指導案の第1時の「留意点」として、「(音読に対して)個人差は大いにあるが、家庭での百人一首や小学校での指導によって読める部分もあるので、そういう部分は大切にしたい。規制はしない。」とある。

◆[教出]

教育出版社株式会社編集局『伝え合う言葉 中学国語2 教師用指導書 教材研究編 上』

◇単元 『随筆の味わい』

\*p149に、小と中(中1・3年のみある)の指導事項のみ載せてある。

- ・小学校：第5学年及び第6学年〔伝ア(イ)〕  
古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
- ・中学校1年：〔伝ア(イ)〕〔c(1)オ〕
- ・中学校3年：〔伝ア(イ)〕〔c(1)エ〕

◇p150：◎学習指導要領との関連

- ・(小学校指導事項を記した上で 筆者補)小学校で学習したこともふまえ、本学年では、短い文での簡潔な文章構成を味わいながら朗読したり、登場人物や筆者の思いなどを想像したりすること

で、自分と古人とを比較し、自らのものの見方や考え方を見直したり広げたりするきっかけとしたい。

◆ [光村]

光村図書出版株式会社『中学校国語 学習指導書 2上』2012.2.25

枕草子

◇p71：2 系統上の位置

\*この部分には、「伝統的な言語文化」の〈表〉が位置づけられている。〈表〉には、小学校の「低・中・高学年」の指導事項を簡潔にしたものが記されており、それを受けて中1・中2・中3の教材（単元名・教材名）とを図式化したものが載せられている。

以上、小学校・中学校の指導書に系統的指導についてどのように記されているかを見てみた。その結果、次のような傾向が見られた。

小学校では、ほとんどが小学校での学習内容について記されており、中学校との関係について記されているのは[光村]であった。そこには、『学習指導要領』の改訂について触れ、小学校の古典学習が、中学校あるいは高等学校の基礎を築くものであり、そのためにも興味・関心をもたせることの重要性が記されている。小学校で重視されていることや指導事項の観点から記されているものの、具体的手立てについては授業者に委ねられていると言える。

中学校で指導書に小学校との関連について記されているのは、[東書][三省堂][教出][光村]であり、[学図]は、高等学校との関連を中心に記している。

[東書]では、中学校での古典学習のねらいや小学校での学習状況を踏まえた内容が記されている。小学校の学習状況については、「小学校で既に『枕草子』の音読を学習している生徒も多い。生徒の実態に応じて、内容理解や表現上の特徴を学習する時間に比重を置くようにするのもよい」とし、実態に応じて学習時間の比重を考えるように促している。

[三省堂]では、小学校に関わる記述が多く見られる。「小学校で学んだ文部省唱歌の歌詞も古文として名文であることに気づかせる」「小学校ですでに触れている作品、日常生活の中でふれる機会の多い作品、生徒たちにぜひ知っておいてもらいたい作品という点も配慮する必要がある」「いずれも、小学校で暗唱してきている可能性が高い。ここでは、教師の範読が、小学校時代の自分たちの読みとは差があることを確認させることが重要」「複数の小学校が集まった中学校では、小学校ごとの既習事項が異なる。また同一の小学校であっても、作品の暗唱をどこまで求めていたかは担当教師によって異なるであろう。生徒間の差があることも予想されるが、授業を進めるペースは、小学校で全く暗唱してこなかった生徒に合わせ、その生徒への支援を大切にしていきたい」と中学校教師に小学校の学習を意識しながら授業を行ってほしいとの思いは伝わってくる。そして、「教材提出の意図」の中には、「今回の小学校・中学校『学習指導要領』の改訂を受け、生徒たちは小学校から系統的に、数多くの古典教材を学んできてきている。（中略）具体的には、小学校での学習との連続性と中学校でこれまで扱ってきた教材と学習活動を考え合わせ選定した。」と述べている。[東書]同様、小学校での学習状況を意

識した上で、授業を進めていくことを促している。また、記述の中に、「生徒たちは小学校から系統的に、数多くの古典教材を学んできている」とあるが、この「系統的」の中身を学習内容、能力、興味・関心、言語活動等々でより具体的にしていく必要があるのではないだろうか。

[教出] では、『学習指導要領』の小学校の指導事項を記した上で「小学校で学習したこともふまえ」として、中学校の学習内容について触れている。

[光村] は、[教出] 同様小学校の指導事項を記した上で、例えば、中学校の古文では各学年どのような教材を学習するかを表にして記している。

上記のことから、中学校での系統的指導の記述は、以下の 3 点を中心に記されていることが分かる。

- ・『小学校学習指導要領』の文言の記述
- ・「系統的」「踏まえる」という教師への意識化を図る記述
- ・小学校の学習状況を踏まえることを促す記述

中学校に比べて、小学校では小学校のみの記述が多く見られたのであるが、小学校においても、見直しをもった学習指導に向けて中学校との関わりについて考えていくことは必要ではないだろうか。

#### 4 終わりに

指導書にも、小学校の古典学習導入に伴って、小学校・中学校の系統的指導について意識化は図られているように思える。しかし、「系統的」「踏まえ」「深める」等の抽象的な表記がなされ、具体的には、繰り返すが教師に委ねられているのである。もちろん、地域の小学校・中学校の実態も様々であり、学習内容や学習の仕方においても様々であろう。しかし、少しでも、具体化していくことは大切ではないかと考えるのである。例えば、『枕草子』であれば、小学校の学習を踏まえた中学校での学習の指導事例を提示していくとか等具体的に今後提示できればよいと考えている。

そして、古典学習を系統的に考えるためにも、先ず小学校・中学校の教師が、それぞれの校種でどのような教材がどのように採録されているのかを見たり、どのような学習指導を行っているかを交流したりするところから始めることも必要ではないだろうか。また、小学校・中学校で、アンケート調査を行い、学びの向上を 9 年間で検証していくことも取り入れてみてはどうだろうか考えるのである。

---

#### 〈引用・参考文献〉

<sup>i</sup> : 文部省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 1999

<sup>ii</sup> : 文部省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 1999

<sup>iii</sup> : 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 2009

<sup>iv</sup> : 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 2009

<sup>v</sup> : 小学校・中学校の系統的指導について一部であるが、先行文献を紹介しておく。

発行年	筆 者	論 文 名	雑誌・編集者等名
1956	鳥山 榛名	小中学校における古典教育	国語と国文学
1997	佐藤 晴樹	小学校・中学校での古典教育	国文学 解釈と鑑賞
2000	川端 建二	小学校における漢詩の定型詩教材としての可能性 同一教材による付属小・中・高での授業研究	月刊国語教育研究
2003	瀧 哲朗	日本語独特のリズムを体感させる学習 小学校中学年における単元開発	月刊国語教育研究
2005	瀧川 靖治	小・中・高等学校における古典指導の系統性をどのように図るべきか	全国大学国語教育学会要旨集108
2007	西辻 正副	小・中・高等学校を見通した古典指導の系統性	日本語学
2009	森 顕子	小中をつなぐ古典学習の提案(1)和歌(『万葉集』・『竹取物語』)を事例として	研究紀要 47
2009	森 顕子	『万葉集』における単元開発 小中連携を意識した単元と導入単元の工夫	学芸国語教育研究(27)
2009	加藤 郁夫	立命館小学校における「古典」教育の実践	全国大学国語教育学会発表要旨集 116
2011	松原 洋子	東京学芸大付属の実践(第6回)小学校と中学校をつなぐ国語科	内外教育(6087)
2011	武久 康高	小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開	高知大学教育実践研究(25)
2011	新治功・吉田裕久他	新学習指導要領の下での授業 伝統的な言語文化の学習における小・中・高の連携について(1)	広島大学学部・付属学校共同研究(40)
2011	佐藤 幸代	中学校国語科における新しい古典教育の方向性	奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」3
2012	武久 康高	小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開(2)小学校実践編	高知大学教育実践研究(26)
2012	北村 拓也	シンキング・ツールと朗読劇を取り入れた古典の授業	滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要54

vi : 「枕草子」は、児童書としても発行されている。ここで、その傾向を紹介しておく。

- ・児童書としての発行当初は、全集の中の一冊という扱いが多く見られる。
- ・1976年頃・・・「ジュニア版」が多く見られる。
  - (例)・福田清人『ジュニア版 日本の古典文学 枕草子・徒然草』偕成社 1976
  - ・竹下政雄『ジュニア版 古典文学6 枕草子』ポプラ社 1976
- ・1990年頃・・・絵本や漫画で多く見られる。
  - (例)・大和和紀／画 紀野恵／文『イラストで読む古典シリーズ』学習研究社 1990
  - ・萩原昌好・野村昇司指導『絵で見るたのしい古典4 枕草子・徒然草』学習研究社 1990
  - ・西原和海『歴史おもしろ新聞 第3巻』ポプラ社 1990
  - ・長谷川孝士『コミックストーリー4 わたしたちの古典 枕草子』学校図書 1990
  - ・森有子『くもんのまんが古典文学館』くもん出版 1991
- ・2010年・・・京都府が制作した刊行物。
  - ・京都精華大学事業推進室編『マンガ枕草子 日本の古典を読もう!知ろう!』京都府寸暇環境部文化芸術室 2010

vii : 『学習指導要領』に見られる言語活動例 (小学校 iii に同書・中学校 iv に同書)

『学習指導要領』に見られる言語活動例			
第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
Bア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をついたり、物語や随筆などを書いたりすること。	Cア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。	Bア 表現の仕方を工夫して、詩歌をついたり物語などを書いたりすること。	